

■メキシコ：米国との原子力協定、協議を開始

米国情報サイトは 2016 年 7 月 22 日、米国はメキシコとの間で、原子力技術の共有や北米地域における低炭素電源の目標達成に向けた原子力協定（123 協定）について検討を始めたと報じた。7 月 22 日に開催されたオバマ大統領とメキシコのペニャ・ニエト大統領による会談で話し合われたとされる。メキシコと米国、カナダの 3 カ国は 6 月 29 日に、総発電電力量に占める再エネや原子力などの非化石エネルギーの比率を 2025 年までに 50% とする、「北米気候・クリーンエネルギー・環境パートナーシップ」を締結しており、パリ協定の実現に向けた取り組みを強化するとしている。オバマ大統領はメキシコとの新たな原子力協定を 2016 年中に締結したいという意向を示しており、この協定が気候変動への対応はもとより、両国間の電力や原子力産業の関係強化も念頭に置いていると報じられている。具体的には、米国からメキシコへの原子力関連機器の輸出や技術移転、原子力技術の利用に関する内容が盛り込まれるとされる。